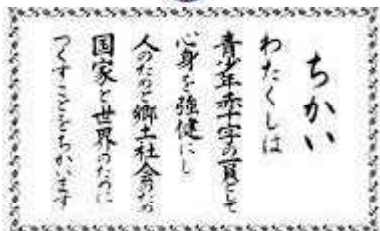


気づき、考え、実行する

校長 嶋見 靖之



Henry Dunant



高千小学校は青少年赤十字（JRC）に加盟しています。4月20日には、新一年生を団員に迎えるJRC登録式を行いました。みんなで、左にある誓いの言葉を読み合わせました。

この登録式で私は、赤十字の父であるアンリ・デュナンについて紹介しました。左に肖像画があります。

スイス人の実業家アンリ・デュナンは1859年6月、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノの近くを通りかかりました。そこで見たものは、4万人の死傷者が打ち捨てられているという悲惨なありさまでした。デュナンは、すぐ町の人々や旅人達と協力して、放置されていた負傷者を教会に収容するなど懸命の救護を行いました。

「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない」との信念のもとに救護活動に当たりました。

その後デュナンは、「戦場の負傷者と病人は敵味方の差別なく救護すること」、「そのための救護団体を平時から各国に組織すること」、「この目的のために国際的な条約を締結しておくこと」、これらの必要性を訴えました。この訴えが発端となって誕生したのが国際赤十字組織だったのです。

青少年赤十字の行動目標は「気づき、考え、実行する」です。この目標が生まれた背景は国際赤十字組織誕生の経緯にあったのではないのでしょうか。

戦争は命を奪い合う行為です。命を奪い合う状況の中で、生命を尊重することは認められなかったでしょう。その状況下にあっても「生命は尊重されるべきもの」という信念があったからこそ、「命が失われる状況はおかしい」という「気づき」になり、この状況を変えるために組織を作らなければならないと「考え」、訴えるという「実行」ができたのです。

「気づき、考え、実行する」は、よりよい社会を築く基本姿勢です。「気づき、考え、実行する」にチャレンジする児童を、ぜひ認め、ほめてください。

認め・ほめることで児童は自信をもつことができます。同時にチャレンジへの意味付け・価値付けになり、その児童にとってこれからの時代を生きるうえでの信念や良い意味のこだわりになっていきます。「認め、ほめる」は、子どもを育てる大人の大切な役割です。